

身延中だより

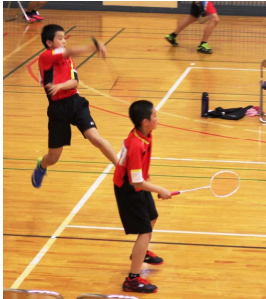
第 4 号 身延町立身延中学校

☎0556-62-0106

令和元年6月13日(木)

FAX : 0556-62-3362

峡南地区総合体育大会の結果



【女子バレーボール】

1日目のリーグ戦

〈第1試合〉

●身延中0-2南部中○

12-25

18-25

〈第2試合〉

●身延中0-2三珠中●

16-25

9-25

2日目のリーグ戦

○身延中2-0市川南中●

25-19

25-17

●身延中0-2六郷中○

12-25

25-27



【柔道】〈団体戦〉

優勝 身延中B

旺介・大聖・龍也・篤志・朔哉

準優勝 身延中A

雪矢・正拓・優吾・康貴・陣

【柔道】〈個人戦〉

〈90kg超級〉優勝：遠藤正拓

〈-66kg級〉優勝：中嶋雪矢

〈-60kg級〉優勝：河野旺介

〈-55kg級〉優勝：望月大聖

〈-50kg級〉優勝：橋本龍也

【野球】

○身延中9-2三珠中●

パート優勝

【ソフトテニス】〈個人戦〉

男子 ベスト8

手塚翔太・遠藤光輝

女子 ベスト16

鮎川瑠・埜村有永

県大会代表決定戦で惜敗

【ソフトテニス】〈団体戦〉

男子

●身延中1-2六郷中○

●身延中0-3南部中○

○身延中2-1早川中●

女子

●身延中1-2鯉沢中○

●身延中1-2三珠中○

○身延中2-1市川中●

【バドミントン】〈個人戦〉男子

(3年シングルス)ベスト16

石川 駿, 笹本倖成, 佐野陽向

松木 一, 前澤佳月, 川村幸詠

(3年ダブルス)ベスト8

石川 駿・前澤佳月 組

川村幸詠・松木涼介 組

(2年シングルス)

第3位 高野 綾

ベスト8 遠藤大和

(2年ダブルス)

第2位 高野 綾・伊藤昊大

〈個人戦〉女子

(2年シングルス)

第3位 長田涼香

【バドミントン】〈団体戦〉

男子●身延中0-2鯉沢中○

●身延中0-2増穂中○

女子●身延中0-2鯉沢中○

●身延中0-2増穂中○



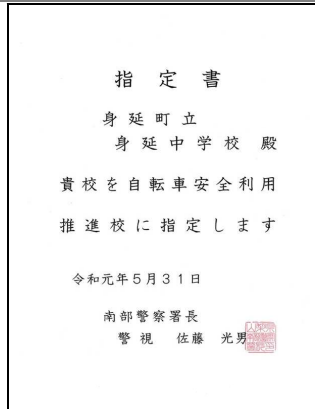
今年度最後の峡南地区総合体育大会が6月6日(木)・8日(土)の2日間の日程で開催され、上記のような結果となりました。ここまで精一杯取り組んできたことに心からの賛辞を送ります。本当にお疲れさまでした。県大会出場の皆さんの更なる活躍を期待しています。

〔文責：校長 松山 京介〕

自転車安全利用推進校の指定を受けました



南部警察署より自転車安全利用推進校の指定を受け、5月31日に佐藤光男署長様より、右の写真の指定書を受領しました。生徒会本部役員、自転車通学の代表者に、認定証がそれぞれ手渡されました。佐藤署長様からは「これまで同様、安全運転に心がけて下さい」とお言葉をいただきました。生徒会長の鮎川瑤さんが生徒を代表して安全運転の誓いを発表しました。痛ましい交通事故のニュースが毎日のように報道



されています。身延中では、無事故、無違反に継続して取り組んでいきたいと思えます。また、南部警察署管内だけでなく日本全国で交通事故の根絶を願っています。

スマホ等の使い方でこんな記事がありました

竹内 和雄・兵庫県立大学准教授

「母が怖い」を理由に夜10時半で切り上げ

前回は、夜遅くまでスマホに夢中な娘（B子）のためにお母さんが考えた「鬼はばあ作戦」について少しだけご紹介しました。今回はその全貌をお伝えします。

①鬼はばあ宣言

B子が友達に「受験生になったら、お母さんがめちゃくちゃ怒ってる。10時半を越えたら『スマホを踏みつぶす』と言って、10時半には終わるね」と宣言。

②「お母さんが怒ってる」10時半になったら、「お母さんが怒るから」と離脱を宣言。

納得するまでの話し合いが奏功

「鬼はばあ作戦（本人命名）」を考えました。以下、その概要です。

B子が友達に「受験生になったら、お母さんがめちゃくちゃ怒ってる。10時半を越えたら『スマホを踏みつぶす』と言って、10時半には終わるね」と宣言。

10時半には終えてほしい。娘は「10時はいくらなんでも無理。11時が限界」と話し合いは長く平行線だったそうだが、最終的には10時半で決着したそうです。私は、この話し合いこそ、重要なのだと思っています。

先日、電話で話しましたが、B子さんは最近、塾に通いだし、部活に勉強に頑張っているそうです。お母さんは、「これまでの混乱が嘘のようだ」と話しています。話し合いの重要性がよく分かる事例です。出来過ぎた話だと感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、紛れもない実話です。

勘所は、納得するまで話し合ったことです。10時と11時で主張し合って、10時半の妥協点を見いだした。これこそ、子育ての極意でしょう。保護者が最初から11時を提案したら、もしかしたら10時半になったかもしれない。妥協点は必ずあります。子ども自身も「スマホ漬けの生活を何とかしたい」と思っていて、保護者の気持ちを察して、話し合いの中で、お互いに何ができるか考えること。子育て・教育の全てに重要なことだと痛感しています。

2018年度の「峽南の教育白書」によりますと中学生のインターネット利用は、平日に3時間以上使用する人が1割、2時間以上使用する人が2割を超えています。また、休日になると利用時間が増加し、実に5割の人が2時間以上使用している状況です。親の立場になると使いすぎに対して心配・不安や苛立ちも募ってきます。その解消策の一つとして考えられる記事が、日本教育新聞の6月3日号に掲載されていましたので本紙面で紹介します。

夜遅くまでSNSやLINEなどに夢中な娘のために親子で考えた取り組みです。「11時以降は居間にスマホを置く」という家庭内のルールを作るのですが事態は改善できません。子どもと母親が話し合い、『鬼はばあ作戦』を展開します。母親が子どものためにあえて悪者になり、切りのつかないLINEによる子ども同士の通話を「お母さんがうるさく怒るので」と離脱させる方法です。記事をお読みいただき、活用できる所は是非参考にさせていただきたいと思えます。

既に文書等でご案内済みですが、6月29日(土)に授業参観等が予定されています。3年生は、進路選択の一助となるよう高校説明会、1・2年生はSNS等の安全な使い方についての講演会もそれぞれ予定されています。公私ともにご多用の折ですが、ご都合を付けてご出席いただきたいと思います。

【文責：校長 松山 京介】